

経営体育成基盤整備事業

人 経済 社会 環境

農地の大区画化や汎用化、末端水路等の更新整備を通じ、担い手への農地集積・集約化や生産効率の向上等を推進します。



区画整理された農地（栗東市）

農地の大区画化や汎用化（水田の畑地利用）、末端水路等の更新整備を行うことで、高い生産効率、高収益作物の導入・生産拡大等を可能とする農業基盤を整備します。さらに、農地中間管理機構と連携し、将来の農業生産を担う経営体（担い手）への農地の利用集積・集約化を推進し、大規模で安定した農業経営の実現を図ります。

● 農地の区画整理



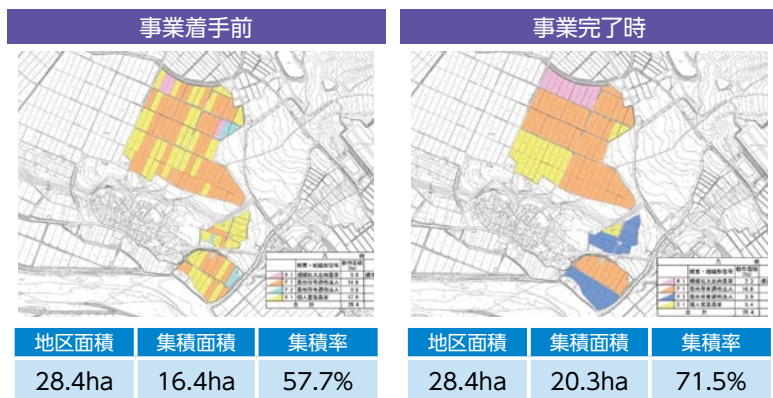
事業実施前（湖南市）



事業実施後（湖南市）

● 農地の集積

農地を所有、または借りること等により、担い手が利用する農地面積を拡大することを利用集積（集積）といいます。



| 経営形態 | 担い手区分 |
|----------|-------|
| 個人営農農家 | — |
| 規模拡大志向農家 | 担い手 |
| 農地所有適格法人 | 担い手 |
| 農地所有適格法人 | 担い手 |

◆ 農地の集約

同一の担い手による経営面積が1ha以上のまとまりを有しているものを集約化と呼んでいます。

事例紹介

栗見出在家地区（東近江市）

栗見出在家地区は、琵琶湖に面した農業地帯で、湖水面とほ場の高さがほぼ変わらない低湿地であり、区画も小さく、パイプラインは経年劣化で漏水が発生し、営農に多大な労力を費やしている状況でした。

このため本事業で、農地の大区画化、管路給水栓の整備、水田農地の汎用化のための暗渠排水（FOEAS）を実施しています。あわせて、事業を契機に地域内の認定農業者と集落営農法人に農地を集積し、安定的な農業経営を図っています。

また、ほ場が琵琶湖岸に位置する立地を活かし、高付加価値化が期待できる魚のゆりかご水田米の生産を地区全域に拡大することや、パンや菓子、日本酒の製造・販売等の6次産業化にも取り組んでいます。

事業名／県営経営体育成基盤整備事業
実施年度／令和2年度～令和8年度
総事業費／554,000千円
(ソフトを除く)
受益面積／63.9ha
事業内容／事業内容／農業生産基盤整備
・整地工 22.0ha
・管路工 7.8km
・暗渠排水工（FOEAS） 6.4ha
実施主体／東近江農業農村振興事務所



魚のゆりかご水田堰上式魚道



魚のゆりかご水田米



自動給水栓の設置（水管理の効率化）



FOEASの設置（水田農地の汎用化）



水田農地の汎用化の取組

農地耕作条件改善事業

人 経済 社会 環境

地域の多様なニーズに応じたきめ細かな耕作条件の改善を支援します。

地域計画を策定した区域において、農地中間管理機構と連携し、担い手への農地の集積を図るため、畦畔除去による簡易な区画拡大や汎用化のための暗渠排水、用水路の整備など、地域の実情に応じたきめ細やかな基盤整備を支援します。

●事業を契機にした高収益作物への転換

基盤整備を機動的に進めるとともに、輪作体系の検討や導入1年目の種子・肥料への支援など、高収益作物への転換に向けた計画策定から営農定着に必要な取組をハードとソフトを組み合わせる支援します。



畦畔除去による区画拡大

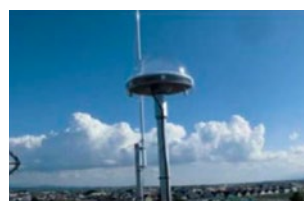
暗渠排水による汎用化



キャベツ（高収益作物）の収穫（東近江市）

●スマート農業導入支援

基盤整備と一体的に自動給水栓やGNSS（衛星測位システム）基地局の設置等、スマート農業の導入を支援します。



GNSS基地局設置



自動給水バルブの導入